# 選挙管理委員会だより

#### 役員候補者選出に関する告示

令和5年12月26日 公益社団法人日本介護福祉士会 選挙管理委員会

内部理事の立候補について届出がありましたので、以下のとおり告示します。

#### <内部理事選挙について>

定数(6名以上9名以内)に対し9名の立候補があった。資格を審査した結果、全員が立候補条件を満たしていることが確認された。立候補者が定数内であるため、役員(理事及び監事)選出規則第13条第3項により、全員を無投票当選とし内部理事候補者と決定した。

#### ※補足

- ・正会員以外の理事候補者(4名以内)及び監事は、役員(理事及び監事)選出規則第4条 第3項に規定する役員推薦委員会により選出される。
- ・役員候補者は、来年5月に予定されている令和6年定時総会において承認を受けた後、 正式に理事及び監事に就任する。
- ・理事候補者すべてが選出された後、定時総会までの間に「役職者の互選規程」に基づいて、 内部理事候補者の中から正副会長等を選出する。

## <内部理事立候補者(届出順・敬称略)>

氏 名	所属都道府県介護福祉士会名	現都道府県 役職
舟田 伸司	富山県介護福祉士会 会長	
森 久紀	茨城県介護福祉士会	会長
及川 ゆりこ	静岡県介護福祉士会	相談役
吉岡 俊昭	広島県介護福祉士会 会長	
黒木 翔一郎	福岡県介護福祉士会理事	
柏本 英子	京都府介護福祉士会	会長
淺野 幸子	大阪介護福祉士会           会長	
今村 文典	熊本県介護福祉士会	理事
酒井 賢一	北海道介護福祉士会	副会長

### 令和5年度改選役員選出スケジュール (予定)

日程	会議等	選举関連業務等
12月26日		理事立候補者名簿・当選告示 (HP)
1~2月	役員推薦委員会	正会員以外の理事、監事の選出
1~2月		役職者互選告示(HP 等何らかの方法)
2~3月		会長立候補受付開始
2~3月		会長立候補受付締切
3~4月	定例理事会	理事候補者の確認、正会員以外の理事・監事の推薦報告
3~4月		役職選考会開催告示(HP 等何らかの方法)
3~4月	第4回選挙管理委員会	理事候補者名簿作成、内規等の検討等
4~5月	役職選考会	役職者の互選を実施(会長内定者の選考等)
4~5月		選挙報告作成
5~6月	定例理事会	役職者の互選内定報告
5~6月	定時総会	役員の選任
5~6月	臨時理事会	役職者の正式決定 → 登記・内閣府へ報告
6月15日 or		総会報告(日介ニュース 6/15or8/15 号及び
8月15日		ホームページ)

#### 内部理事立候補者(届出順)

介護の生産性向上を推し進めていくことは、現在の国情を鑑みれば待ったなしの状況と言えます。介護サービスの 受益者を第一と考え、国民の生活の側に寄り添い、その質の向上に資する私たち、介護福祉士が中核人材としてそ の能力を遺憾無く発揮していくのは正に"今"といえるのではないでしょうか?介護の生産性向上の中核人材とし て、介護の価値を高めていきながら『介護福祉士としての価値の創出と提言及び、社会的地位の向上と確立』を推 し進めていきたいと思います。



舟 (年齢) 53歳 (所属都道府県) 州田 伸司

①デジタルテクノロジー基本研修の持続的な展開を実現していきます。介護現場における生産性向上方策の一つと して、テクノロジーを効果的に活用し、より質の高いケアを実践できる介護職員を養成していきます。

②介護ロボットの持続的な利活用に関しては、介護福祉士の本質でもある「自立(律)支援」と「尊厳を支える介 護」の概念が必要不可欠です。また、LIFEと介護ロボットとの連携と連動は極めて有効でもあります。介護福祉士 としての『介護リテラシー』を発揮し、国及び関係団体や専門家への提言とともに、介護の価値を高めていきます。 ③災害支援における介護福祉士の専門性を、DWAT、災害ボランティア、BCPの視点で深化していきます。

が日本介護福祉士会を俯瞰することに繋が が進 補させて頂きます、 ます 現状を把握することができました。 理学療法士協会の斎藤会長と幾度かコミュ 考えます。 有する。 ションプランを作成し全国の会長たちと共 漠然と会員数を増やそう。ではなく、 ると考えます。一期目の実績として、 していきたいと考えます。 せコミュニケーションを図ることを大切に を茨城県で開催し、 いと考えます。 き の会長の皆様たちとのつなぎ役として働 たしたく立候補させて頂きました。 に掲げた活動目標と同様、 ケーションを図ることができ、 ばと考 ルな研修提供と両輪で会員数増につなが 次に、 理事の森久紀です。 最後は、 |期目として活動させて頂くべく、ご指 コロ かで、 会の強みや弱みを確認することが 他団体との関係性を構築していくこと 日 協力の程よろしくお願い申し上げま ルを合わせ一枚岩になる必要があると んだのではないかと自負しておりま 回 本介護福祉士会の基盤強化を図りた 当然都道府県によって差が出 他職能団体との連携強化を挙げま H ナ禍で遠のいていた直接顔を合わ なんと言っても組織強化です。 日本介護福祉士会が誇るハイレ そこに常任理事が介入する。 本介護福祉士会常任理事に立 日本介護福祉士会全国大会 顔の見える関係の構築 現 二期目として活動 日本介護福祉士会常 四十七都道府県 お 一期目 Ā アク Ħ いの でき てき 本



います。 たが、 研修の読み替え等、 だ未達成のままであると考えております。 き役割の整理と、 ざいました。 たり本会の組織の在り方を、 理事に立候補いたします及川ゆりこでござ として、 果たさなければなりません。 成できていない状態です。 かり感じていただくことなど、 後のメリットや組織に所属する意味をし 展開を介護福祉士の業務独占とすることや 討いただきながら実施した大きな案件でご てまいりました。 ほかの役員とともに検討を繰り返し行 {福祉士会の役員の皆様等にも繰り返し検 平成二年度より会長に就任し、 何よりも、 これまで進めてきた、 その中でも会費の見直 この度、 期にわたって会長を勤めてまいりま 私は本会が職能団体として果たすべ これまでの取り組みを強化させて 公 益社団 会費見直しを実施した責任を 組織強化の役割を、 及び会員の皆様に入会 法 人日 例えば介護過程 しは、 本介護福祉 もう一 組織強化を含 まだまだ 都道府県介 一期に 期理事 いま

め



( ( ( ( ( 所属都道府県) ( )

2年間の日本介護福祉士会の常任理事を務めさせて頂きました。広報を担当する中で日本介護福祉士会の取り組み、各都道府 県会の独自の活動がたくさんあることも知りました。その活動をもっと全国に発信し、素敵な活動や取り組みが全国で共有で きる仕組みを築き上げて行きたいと思っています。

0

いただきたいと考え、

立候補いたします。

そのための情報収集。そして発信を今まで以上に力を入れて取り組みたいと思います。介護福祉士会を知らない人たちへの PR、 養成校で学ぶ学生や教鞭をとる先生たちへの PR、そして、これからの日本を担う子供たちには介護という仕事の尊さと魅力の**発信** を先頭に立って行いたいと思っています。その発信が入会者の拡大につながり、組織強化にも繋がると思っています。

また、外国人の介護福祉士の資格取得者、入会者も年々増えてきており、日本の介護を世界に発信するチャンスだとも思っていま す。だからこそ、日本介護福祉士会に入会している外国人が職能団体で活躍できる場を作り、外国人介護福祉士の視点で日本の介護 を、介護福祉士会という職能団体を、母国をはじめ世界に発信して行く仕組みも作りたいと思います。

このような思いで 「発信」 を自分のスローガンに掲げ、日本介護福祉士のこれまでの歩みを止めることなく、更なる飛躍を目指 したいと考えています。



吉 (年齢) 44歳 (所属都道府県) 吉岡 俊昭

#### 内部理事立候補者 (届出順)



(年齢) 39歳 (所属都道府県) 福岡県 期一郎

常任理事として活動して参りました。 介護福祉士会の理事、令和4年度からは、 研修制度に関する業務を担ってきました。 護福祉士会の事務局で十四年間、 資格を取得しました。 私は、 令和2年度より、 福祉大学を卒業し、 卒業後は、 公益社団法人日本 介護福祉士の 主に生涯 福岡県介

学びやすい環境作りを目指し、活動して参 |努めて参ります。年々、研修を受講する方 生涯研修制度・認定介護福祉士等の普及に 発信、啓発活動を行います。 護の仕事に就きたい」と思うような魅力の ります。また、 研修ポイントの活用方法について、 ライン(オンデマンド)研修の充実や生涯 の確保が難しくなっている状況です。 涯研修の必要性を強く感じるようになり、 福祉士として学び続けることの大切さ、生 日本介護福祉士会の活動を通して、 人が少ない昨今、介護の魅力を伝え、「介 介護福祉士(介護職)を目指 会員が オン

にオンライン勉強会を開催しました。 ました。その中で、定期的に、都道府県向け 検討委員会の委員長として、 く立候補させていただきます。 令和四年度から4年度は、 勉強会等を開始し、情報を発信した 活動して参り 生涯研修体系 引き

に近隣都道府県との会議が開催できるよう 都道府県が密に連携できるように、 取り組みます。 都道府県の組織力の強化・近隣 定期的

|織率を上げることの重要性を説いて行きま を高める為に、 課題の1つである介護福祉士会の会員率 入会メリットを発信し、 組



( ( ( ( 所属都道府県) ( 京都府県)



事や事務局、各都道府県介護福祉士会や会 護福祉士の皆様が誇りを持ち、 大きくなってきていると感じています。 介護福祉士の職能団体としてさらなる発展 事として活動することで、 た。これまでの経験を生かし、 貴重な経験や知識を得ることができまし 術推進の委員として携わることで、 認定介護福祉士養成研修に関することや学 先輩理事や事務局の皆様のご助力を頂き、 連携を図っていきたいと思っています。 援を行っていけるよう、これまで以上に理 に寄与したいと考え、立候補いたしました。 2期目の立候補をいたします。 介護福祉士の活躍の場は広がり、 前期より理事を務めさせていただき今 関係団体や行政と情報を共有し 国家資格である よりよい支 引き続き理 1期目は、 期待も 多くの 介

|護福祉士養成研修や研究の推進に取り組 み、 にも、 介護福祉士会の存在を知っていただくため 上げます。 ますのでご支援の程何卒宜しくお願い申し される環境づくりに尽力する所存でござい して組織率が大きな課題となっています。 されている介護福祉士ですが、 介護福祉の現場で、中核的な役割を期待 関係機関や他の学会との協力関係を強 介護福祉士の役割が社会により理解 介護福祉士の専門性を高める認定介 職能団体と



( 年齢) 52歳 ( 年齢) 52歳 ( 年齢) 52歳

|祉士会の理事に立候補いたします。 高い介護を行うためには、専門職として学 いに影響していると考えます。「生産性向 私、 「人口減少」は私たち介護福祉士にも大 や「介護DX」を活用しながら、質の 淺野幸子は公益社団法人日本介護福 社会的な課題である「少子高齢化. (所属都道府県) (所属都道府県) (所属都道府県)

p

Ŀ

びを継続していくことが不可欠だと考えま

立、それに比例する給与・待遇などの改善 上」や「介護DX」など学びを深めること と考えます。 率では職能団体としては厳しい状況にある 下に危機感を募らせています。現在の組織 環境整備にも尽力したいと考えます。 方はもちろん、潜在介護福祉士の方も魅力 を含め、現在介護現場にて勤務されている により介護福祉士自身による専門性の確 その一方で、 また、常に「介護過程の実践」「生産性向 介護の現場に復帰したいと思える 職能団体として組織率の低

福祉士会の在り方と、 るような組織基盤の強化に研鑽して参りた った、職能団体に入会して良かったと思え 会員一人一人が介護の仕事をしていて良か ずは組織率 5%を目標に努めて参ります。 向けて積極的に活動したいと考えます。 いと強い決意で臨みます。 そこで私は役員となり「組織の拡大」に 公益社団法人としての日本介護 都道府県との連携・ ま

> 進めています。全ての都道府県介護福祉士会 るために説明を積み重ねながら協定締結を 介護福祉士会の連携をより強固なものとす います。更に、 て、一定のご理解を得て今年度より実施して なりません。 増やしつつ組織強化を図っていかなければ を実感しています。その期待に応えるために は今までになく大きくなってきていること 活動していく中で、 この間、組織の在り方に係る見直しについ 日本介護福祉士会の業務執行役員として 職能団体の存在価値を高めながら会員を 介護福祉士に対する期待

速させていくことになるはずです。 るものにした上で、将来に向けての活動を加 との協定の締結は、 都道府県介護福祉士会と日本 職能団体の基盤を確固た

備えることが必要です。 を時代の要請に合わせて展開する機動力を ていかなければならないと考えています。 を高め、 て「質」 私は、 次の2年間、都道府県介護福祉士会が主体 その為には仲間を増やし、職能団体の活動 誰もが認める「専門性」を創り上げ 介護福祉士自身が高い倫理観を持つ の向上を図りながら資格の「価値」

の連携を図りながら構築していきたいと考 策を国をはじめとする行政や関係各団体と 的に活動できる体制を側面的に支援する方 えています。 令和6年に30周年を迎える日本介護福 会員あっての組織です。 私は、 ح

れまでの歩みを踏まえながらも先を見据え 祉士会は、 た取組を行っていくとともに、会員の皆様と 緒に前に進んでいきたいと思っています。

協力の目指すべき姿も一緒に考え、より良

い方向に発展するためにも尽力したいと考

えます。

#### 内部理事立候補者(届出順)

大切に、感謝を持って最善を尽くすた

の立候補といたします。

と思っています。

人と人との関係性を

命を果たすことを約束します。

一人で成し得る役割や仕事はない

社会にとって有益な資源となり貢 スの質が向上すること、介護福祉士が 護福祉士が提供する介護福祉サービ 介護現場の生産性向上を図りつつ、

献

つづけることを実現するために、

験を活かして、

専門性、

資質の向上を図ること、

介護福祉士の職業倫

アとこれまでの職能団体での

活動経 キャリ

介護福祉士として約31年の

役割を担ってまいりました。 や各種調査研究事業への参画等、

その

会部会長、生涯研修体系の在り方検討産性中核人材育成プログラム検討部 部会部会長を中心に、会の様々な事業 ら日本介護福祉士会常任理事とし を担ってまいりました。 会長として、 1期2年の間、 方々のご支援をいただき、 ていただきます。 ?々のご支援をいただき、令和4年かそして、ご縁と巡り合わせや多くの 選出に伴う理事選挙に立候補させ 長きに渡り、北海道介護福祉士会副 この度、 令 主に研修事業や組織強化 和6年度改選の役員候補 倫理委員会委員長、生



(年齢) 5 8 歳 (所属都道府県) 北海道

# 選挙委員会だより

令和5年12月26日 発行:公益社団法人日本介護福祉士会 選挙管理委員会 委員長 山本 克哉

本たよりは内部理事選挙が実施されないため、選挙公報に代わり発行するものです。